

漁海況月報

令和3年1月1日

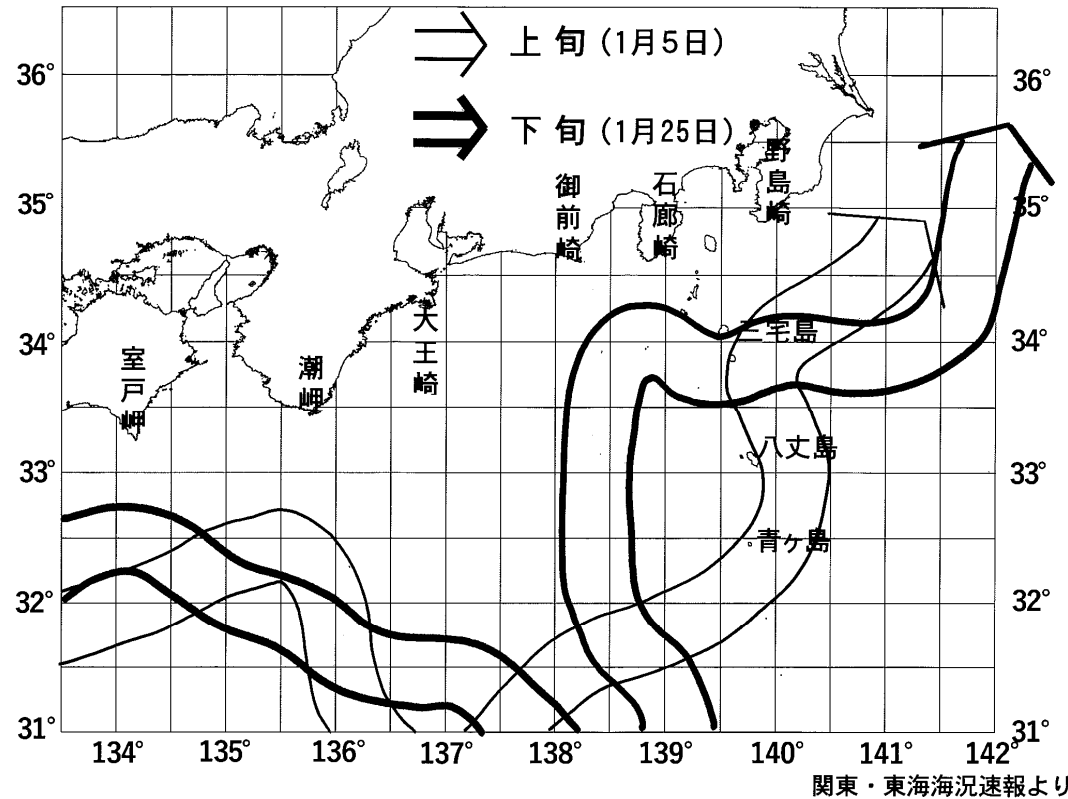
No.1 ~1月31日

静岡県水産・海洋技術研究所

(電話 054-627-1815)

静岡県水産・海洋技術研究所 伊豆分場

(電話 0558-22-0835)



関東・東海海況速報より

1月定地水温の旬平均値() (下段は平年偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津
上旬	15.8	15.4	15.9	15.8	15.3	15.6
	0.5	-0.5	0.7	0.2	-0.4	0.8
中旬	15.6	15.3	15.4	16.1	16.1	15.0
	0.7	-0.1	0.7	1.0	1.1	0.7
下旬	15.6	16.0	16.4	16.8	16.9	15.5
	1.1	1.1	2.1	2.2	2.4	1.5
月	15.7	15.6	15.9	16.3	16.1	15.3
	0.8	0.2	1.1	1.2	1.1	1.0

*地頭方の水温観測は終了しました。

[黒潮流路]

潮岬を大きく離岸した後に一時的に伊豆諸島の東側を北上したが、その後は遠州灘沖で南方へ大きく離岸し伊豆諸島の西側を北上する流路となった。

上旬は潮岬を大きく離岸し、大王崎沖 31°N まで南下した後に青ヶ島付近まで北上して三宅島の東を北流する流路となり、遠州灘、駿河湾、大島東・西水道に向けて暖水波及が見られた。

中旬は潮岬を大きく離岸し、御前崎沖 30.5°N まで南下した後に石廊崎沖まで北上して八丈島の北を東流する流路となり、熊野灘～遠州灘、駿河湾、大島東・西水道に向けて暖水波及が見られた。

下旬は潮岬を大きく離岸し、遠州灘沖で 31°N まで南下した後に石廊崎沖を北上して三宅島付近を東流する流路となり、熊野灘～遠州灘、駿河湾、大島東・西水道に向けて暖水波及が見られた。

[県下沿岸域]

上旬は稲取で「やや低め」、雲見、沼津で「平年並み」、伊東、下田、焼津で「やや高め」であった。中旬は稲取で「平年並」、その他で「やや高め」であった。下旬は伊東、稲取で「やや高め」、下田、雲見、沼津、焼津で「高め」であった。

[竿釣りカツオ]

1月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海及び沿岸竿釣り船によるカツオの水揚げはなかった(前年同月水揚げなし)。

竿釣り(近海+沿岸船)カツオ水揚量(県内主要5港)

期間	水揚量(ト)	水揚隻数	平均水揚量/隻(ト)	平均単価(円/kg)
R3年1月上旬	0	0	-	-
中旬	0	0	-	-
下旬	0	0	-	-
R3年1月計	0	0	-	-
R2年1月計	0	0	-	-
H31年1月計	6.6	1	6.6	236

[定置網]

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は49.0トンで前年の同漁場の水揚量(169.1トン)の29%であった。また、1か統あたりの水揚量は、7.0トンで前年(24.2トン)の29%、平年(33.2トン)の21%であった。水揚量の多い漁場は、川奈漁場(14.8トン、メアジ、さば類、マアジ)次いで富戸漁場(7.4トン、マイワシ、さば類、イサキ)であった。

多獲された魚種の水揚量は次頁(表)の通りで、さば類は14.8トン、前年比53%、平年比33%であった。水揚げされたさば類はゴマサバ主体で、その量は10.9トン、前年比64%、平年比25%であった。メアジは8.8トンで、前年比13.1倍、平年比3.9倍であった。マイワシは3.5トンで、前年比19%、平年比16%であった。マルソウダは2.7トンで、前年比11%、平年比1.2倍であった。イサキは2.5トン、前年比3.0倍、平年比6.1倍で、1月の水揚量としては昭和57年以降、最も多かった。その他の魚種については、ハガツオが0.4トン、前年比7.4倍、平年比6.7倍で、1月の水揚量とし

ては昭和57年以降、平成31年に次いで多かった。

多獲された魚種の主な漁場は、以下(表)の通りで、各漁場の水揚量の割合は、さば類では川奈漁場が25%(3.7トン)、北川漁場が21%(3.1トン)、伊豆山漁場が15%(2.2トン)、メアジでは川奈漁場が73%(6.4トン)、古網漁場が20%(1.7トン)、マイワシでは赤沢漁場が53%(1.9トン)、富戸漁場が45%(1.6トン)、マルソウダでは富戸漁場が22%(0.6トン)、川奈漁場が20%(0.5トン)、古網漁場が19%(0.5トン)、赤沢漁場が15%(0.4トン)、イサキでは富戸漁場が44%(1.1トン)、川奈漁場が25%(0.6トン)を占めた。
* 平年：昭和57年～令和2年の平均値

(表) 多獲された魚種の水揚量と主な漁場

魚種	水揚量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
さば類	14.8	0.53	0.33	川奈、北川、伊豆山
メアジ	8.8	13.08	3.87	川奈、古網
マイワシ	3.5	0.19	0.16	赤沢、富戸
マルソウダ	2.7	0.11	1.20	富戸、川奈、古網、赤沢
イサキ	2.5	2.97	6.13	富戸、川奈

[サバたもすくい網]

小川港所属の棒受網漁船は月を通じてたもすくい主体で操業した。漁場は月を通じて大島南部に形成された。水揚量はゴマサバ150トン(前年同月比85%)であり、1隻あたり水揚量は15.0トン(前年同月比2.0倍)であった。マサバの水揚げはごく僅かであった(前年同月324トン)。

1kgあたり平均単価はゴマサバは114円で前月(102円)を上回り、前年同月(121円)をわずかに下回った。

水揚げされたゴマサバの体長組成は32～33cmにモードを持つ単峰型を示した。

小川港 さば類(たもすくい網漁業)水揚量

期間	水揚量(トン)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
R3年 1月上旬	-	10	1	1	-	10.0	-	111	大島南部
中旬	0	41	3	3	0	13.8	216	114	大島南部
下旬	0	99	3	6	0	16.5	198	114	大島南部
R3年 1月計	0	150	7	10	0	15.0	203	114	大島南部
R2年 1月計	324	176	9	23	14.1	7.7	156	121	利島、三本
H31年 1月計	465	155	7	22	21.2	7.0	128	118	利島、三本

* 水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

* 表中の「-」は水揚げがなかったこと、「0」は水揚げがごく僅かであったことを示す。

[シラス船曳網]

県内主要6港における1か統当りの水揚量は、駿河湾(静岡、吉田)が99kg/統、遠州灘(御前崎、福田、舞阪、新居)が151kg/統であった。主要6港全体では112kg/統と前年同月(69kg/統)の1.6倍、

平年同月(過去5か年平均:281kg/統)の39.9%であった。また、水揚量は20.8トンで前年同月(9.9トン)の2.1倍、平年同月(64.7トン)の32.2%と、前年同月を上回り、平年同月を下回った。平均単価は1,185円/kgと、前年同月(1,447円/kg)の81.9%、平年同月(746円/kg)の1.6倍と、前年同月を下回り、平年同月を上回った。なお、今期のシラス漁は1月14日で終漁した。

シラス水揚量(主要6港)

漁港	水揚量(トン)	延日数	延統数	1か統当たり水揚量(kg/統)	平均単価(円/kg)
新居	0	0	0	-	-
舞阪	2.8	1	19	147	1,062
福田	1.7	1	18	93	906
御前崎	2.8	1	11	254	1,056
吉田	6.8	3	77	89	1,320
静岡	6.8	3	61	111	1,221
R3年1月計	20.8	9	186	112	1,185
R2年1月計	9.9	10	142	69	1,447
H31年1月計	22.3	14	179	125	1,285

* 各港の数値は四捨五入しているため、各港合計と月計の値は一致しない場合がある。

* 平年同期：過去5か年(平成28～令和2年)平均値

* 1そう曳きの場合は1隻で1か統、2そう曳きの場合は2隻もしくは運搬船を含んだ3隻で1か統とする。

[まき網(いわし類)]

マイワシの水揚量は、伊東港では39.4トン(前年同月比28.5%、平年同月比76.8%)、静岡港、沼津港、小川港では水揚げが無かった。カタクチイワシは、伊東港、静岡港、沼津港、小川港では水揚げが無かった。

なお、伊豆半島東岸の大型定置網7か統の水揚量は、マイワシは3.5トン、カタクチイワシは0.07トンであった。
* 平年：過去5か年(平成28～令和2年)平均値

[調査船駿河丸の動向]

1月5日	～	1月6日	地先定線観測調査	(2日間)
1月20日			Ma01 プラクトン調査	(1日間)
1月25日	～	1月26日	サクラエビ音響調査	(2日間)

静岡県水産・海洋技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星 NOAA の海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

